

望観天 氣天

森林・林業再構築のとき

令和2年も強力台風や集中豪雨などの自然災害とパンデミックに悩まされ、人間の能力の限界を痛感させられました。

私たちはこれまで、さまざまな生命、水や大気、酸素・窒素・炭素などの資源は何不自由なく与えられるものであり、たとえ、一時的に壊されても神の見えざる手のおかげで、やがて自然が治癒してくれるものと思ひ込んでいました。まさか、人間の活動範囲と規模が大きくなり過ぎて、生命と環境の持続可能性を心配しなければならなくなるうとは思っていませんでした。

森林は水や大気の浄化、土壌の生成・保全と肥沃度の再生、栄養物の循環と運動、気候の緩和など地球の生態系サービスの重要部分を担います。人類の生命と地球環境にサービスする森林本来の価値を見直し、森林・林業を再構築すべきときが到来したのではないのでしょうか。

論語に、「子曰く、人にして遠き慮りなければ、必ず近き憂いあり」とあります。距離でなく時間の遠近です。

わが国の森林・林業は戦後の復興と発展に大きく寄与しましたが、最近では、木材不足から過剰へと需給形態が変化し、将来展望が開けません。森林・林業は一般の経済活動とは時間尺度が異なるうえに、国土の約7割を相手にする巨大プロジェクト、変化への対応が後手になってしまいます。

しかし、明治神宮の森づくりに見られるように、百年先を見通した森づくりは可能です。従来主流であった木材生産のための林業とは別の「生命と環境にサービスする、本来の森林サービス林業」には大きな可能性と希望が残されていると思います。

豊かな水と大気を保全し、生命あふれる土壌を培うという森林の持つ生態系サービス能力を拡大強化する大事業は、最高の公共事業に違いありません。恵まれた地理的気候的条件を活かし、国土の約3割を占める人工林を耕して、太陽の営みを相伴する日本の森林サービスの一層の実現を強く期待します。



後藤 國利
林業家

ごとう くにとし
1940年大分県生まれ。大学在学中から森林経営に携わる。66年、家業の会社社長に。75～95年大分県議会議員、97～2009年臼杵市長を務める。森の土を耕しながら大径木を育てる「百年の森づくり」を提唱、60年間続けている。